

日蓮大聖人御書全集

ときどのごしよ

富木殿御書

みのぶにゆうざん こと

(身延入山の事)

新版
1304
〜
1305

ときどのごしよ みのぶにゆうざん こと

富木殿御書 (身延入山の事)

ぶんえい ねん がつ にち さい ときじょうにん

文永11年(74) 5月17日 53歳 富木常忍

じゅうにち 酒 句 じゅうさんにち 竹 下 じゅうよつか 車 返

十二日さかわ、十三日たけのした、十四日くるまがえし、

じゅうごにち 大 宮 じゅうろくにち 南 部 じゅうしちにち

十五日おおみや、十六日なんぶ、十七日このところ。い

定 大 旨

まださだまらずといえども、たいしは、この山中、心中に

かな そらら そらら さんちゆう しんちゆう

叶って候えば、しばらくは候わんずらん。結句は一人に

にほんこく るろう 身 そらら 立 止

なって日本国に流浪すべきみにて候。またたちとどまる

身 見 参 い そらら きようきようきんげん

みならば、げんざんに入り候べし。恐々謹言。

じゅうしちにち にちれん かおう

十七日 日蓮 花押

ときどの

飢 渴 もう

けかち申すばかりなし。八木一合もうらず。がししぬ

こめいちごう 売

餓 死

ごぼう

皆 帰

ひとりそうろう

べし。この御房たちもみなかえして、ただ一人候べし。

由 ごぼう

語

たま

このよしを御房たちにもかたらせ給え。